

平成22年3月期（第13期） 第3四半期決算説明会

平成22年2月12日

株式会社Jストリーム

※当資料に記載されている業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき、当社で判断したものであります。予想には様々な不確定要素が内在しており、実際の業績はこれらの予想数値と異なる場合がありますので、この業績予想に全面的に依拠して投資などの判断を行うことは差し控えて下さい。



サマリー：第3四半期業績総括

(単位:百万円)

	連結			個別		
	実績	前年同期	前年同期比	実績	前年同期	前年同期比
売上高	1,264	1,177	7.3%	845	944	△10.5%
営業利益	△ 43	12	—	△ 1	4	—
経常利益	△ 34	35	—	10	17	△38.0%
四半期純利益	△ 95	11	—	△ 53	0	—

- ◆ プロモーション関連案件の低迷と配信価格への圧力と、モバイル系のKDDI案件終了に伴う反動減が影響し売上低下。
- ◆ グループ全体としては、プロモーション用途の映像・ウェブ各種制作の冷え込みの影響、携帯端末メーカー向けの受注不振等の影響が大きい。
- ◆ Jストリーム本体中心の経費削減策が奏功、第一、二四半期対比では利益率改善。

内的要因

- ◆ 人員増に伴う固定費の増加
- ◆ グループ内連携による案件内製化進行
- ◆ 販促費等の大幅削減実施

市場環境

- ◆ プロモーション用途に代表される短期の制作・配信案件の不振
- ◆ 長期配信案件中心に価格圧力強まる

連結決算ハイライト P/L

	22. 3第3四半期 連結累計期間 (構成比)		増減率	21. 3第3四半期 連結累計期間 (構成比)	
売上高	3,968,396	100%	+17.4%	3,377,570	(100%)
売上原価	2,482,634	62.6%	+25.9%	1,971,895	(58.4%)
売上総利益	1,485,761	37.4%	+5.6%	1,405,675	(41.6%)
販売費及び 一般管理費	1,700,556	42.9%	+31.0%	1,297,994	(38.4%)
営業利益	△ 214,794	—	—	107,680	(3.2%)
経常利益	△ 196,125	—	—	126,463	(3.7%)
税金等調整前 四半期純利益	△ 220,778	—	—	139,093	(4.1%)
四半期純利益	△ 227,569	—	—	59,450	(1.8%)

特別利益
 固定資産売却 44,500
 (モバイルビジネス関聯)
 貸倒引当金戻入額
 17,643

特別損失
 支払和解金等
 18,420
 投資有価証券評価損
 62,562

法人税等 9,150
 法人税等調整額 20,817
 少数株主損益 △23,176

- ◆ 子会社の増加等に伴い前期対比売上高17%増となるが、費用面の増加を吸収できず第3四半期赤字を計上。
- ◆ エル・カミノ・リアル社関係で投資有価証券評価損62百万円を計上

連結バランスシート

		22. 3Q末	主な変動要因	21年3月期末	21. 3第3四半期	
資産の部	流動資産	2,846,138		2,645,094	2,683,839	
	固定資産	1,107,864		1,361,710	1,420,355	
	有形固定資産	215,700		198,929	197,966	
	無形固定資産	549,422		538,594	529,953	
	投資その他の資産	342,741	▶ クロスコ社株式が投資有価証券から子会社株式となったため連結処理により減少	624,187	692,435	
資産合計		3,954,003		4,006,805	4,104,195	
負債の部	流動負債	537,865	▶ 預り金等人件費系の負債が増加	484,670	526,540	
	固定負債	147,253	▶ 長期のリース債務増加による	127,721	125,389	
純資産の部	株主資本	資本金	2,182,379		2,182,379	
		資本剰余金	1,268,458	▶ Jストリーム単体での資本剰余金取り崩しにより変動	1,430,642	1,430,642
		利益剰余金	△309,156		△243,770	△189,606
	少数株主持分	127,202	▶ クロスコ社子会社化に伴い増加	25,160	28,850	
	純資産合計		3,268,884		3,394,412	3,452,265
負債・純資産合計		3,954,003		4,006,805	4,104,195	

▶ 4月の子会社の増加による変動が中心。

連結売上原価 構成比率

(※22. 3第3四半期連結累計期間構成比率順 単位:千円)

	22. 3第3四半期 連結累計期間 (構成比)		増減率	備考	21. 3第3四半期 連結累計期間 (構成比)	
	金額	比率			金額	比率
労務費	924,222	(37.2%)	+78.0%	人的費用の合計 1,683百万円 (前年度: 1,215百万円 対比+38%) 連結従業員数 21年12月末 372名 (20年12月:255名) クロスコ社子会社化 によるもの アップアローズ社 子会社化により増	519,146	(26.3%)
外注費	604,653	(24.3%)	+18.5%		510,059	(25.8%)
通信費	292,253	(11.7%)	+6.0%		275,554	(13.9%)
ロイヤリティ	246,720	(9.9%)	+8.1%		228,110	(11.5%)
業務委託手数料	155,027	(6.2%)	△16.7%		186,283	(9.4%)
地代家賃	91,872	(3.7%)	+47.8%		40,679	(2.0%)
賃借料	90,946	(3.6%)	+39.5%		53,696	(2.7%)
ソフトウェア償却	76,813	(3.0%)	+43.0%		57,111	(2.9%)
保守料	71,581	(2.8%)	+25.3%		65,187	(3.3%)
減価償却費	55,012	(2.2%)	+35.2%		62,145	(3.1%)
その他及び 他勘定振替	△126,465	(△5.0%)	—		△26,075	(△1.3%)
売上原価合計	2,482,634		+25.9%		1,971,895	前年比 +20.7%

制作の不振を受け外注の内製シフト、効率化を図っているが、4月のクロスコ社子会社化の影響もあり人的費用の増加が大きい。賃借料、地代家賃等の増加も子会社の増加によるもの。

販売費及び一般管理費主要項目（連結）

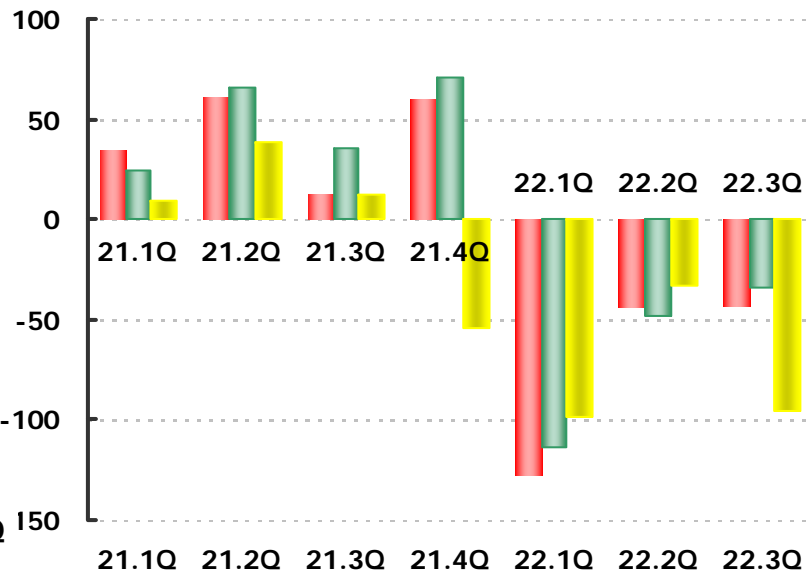
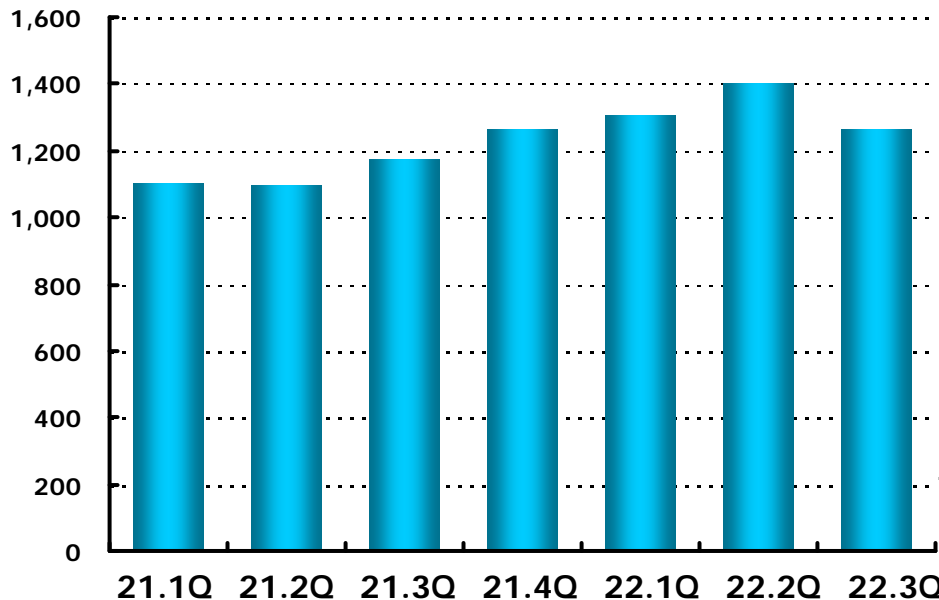
（※22. 3第3四半期連結累計期間構成比率順 単位:千円）

	22. 3第3四半期 連結累計期間(構成比)		増減率	備考	21. 3第3四半期 連結累計期間(構成比)	
人件費	965,946	(56.8%)	+49.2%	アップアローズ (モバイル関連) 監査報酬の増加、 子会社分が影響	647,161	(49.8%)
販売支援費	149,169	(8.7%)	+122.2%		67,113	(5.1%)
地代家賃	90,998	(5.3%)	+38.2%		65,808	(5.0%)
支払手数料	63,482	(3.7%)	+10.9%		57,229	(4.4%)
研究開発費	60,185	(3.5%)	+6.2%		56,632	(4.3%)
販売促進費・広告宣伝費	42,398	(2.4%)	△35.1%		65,405	(5.0%)
システム管理費	36,880	(2.1%)	+28.2%		28,768	(2.2%)
営業権償却	31,469	(1.8%)	△12.1%		35,814	(2.7%)
旅費交通費	21,198	(1.2%)	△8.0%		23,059	(1.7%)
求人費	20,805	(1.2%)	△18.4%		25,526	(1.9%)
株式関係費	19,537	(1.1%)	△49.0%		38,376	(2.9%)
業務委託手数料	19,026	(1.1%)	△58.0%		45,352	(3.4%)
その他 (雑費、賃借料等)	179,463	(10.5%)	+26.6%		141,751	(10.9%)
販売費及び一般管理費 合計	1,700,556		+31.0%	1,297,994		

- ◆ 連結子会社(オフィス、人員)増のコスト要因増加が影響／技術制作部門の営業支援増加に伴い販売支援費が増加。
- ◆ 販促費・広告宣伝費、求人費等間接費を大幅に切詰

(単位:百万円)

四半期別売上、利益推移(連結)

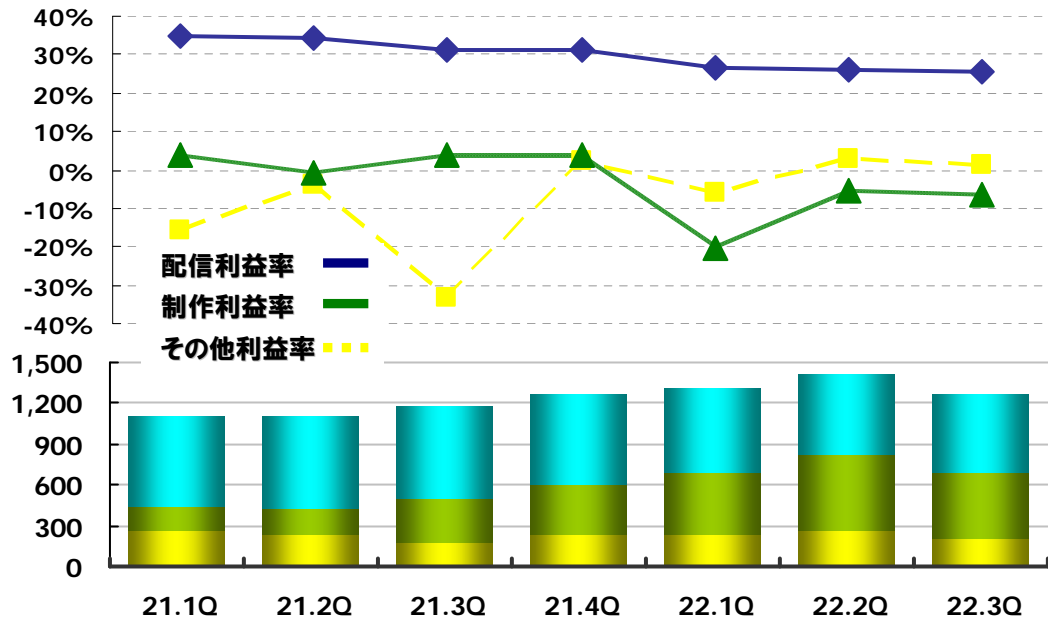
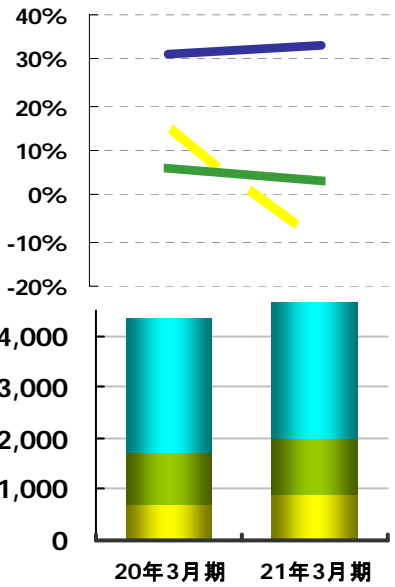


売上高	1,104	1,096	1,177	1,261	1,304	1,399	1,264
営業利益	34	60	12	60	△127	△43	△43
経常利益	24	66	35	70	△113	△48	△34
経常利益率	2.2%	6.0%	3.0%	5.6%	△8.7%	△3.4%	△2.6%
純利益	9	38	11	△54	△98	△33	△95
売上高	1,965		2,200		2,704		
営業利益	62		95		△171		
経常利益	64		91		△162		
純利益	21		47		△132		

- ◆ 四半期毎で見た場合、3Qも引き続き営業赤字計上となっているが、特にJストリーム本社の経費節減策が奏功し利益率は改善傾向。
- ◆ 12月には受注減の傾向に歯止めがかかり、上向きつつある

(単位:百万円)

連結セグメント売上／営業利益状況

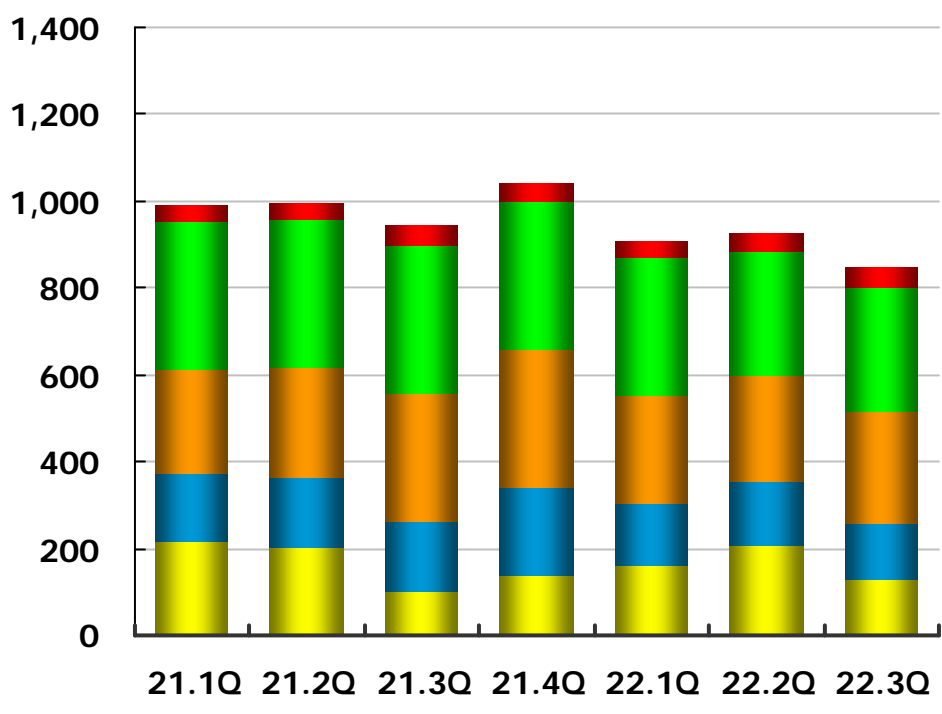
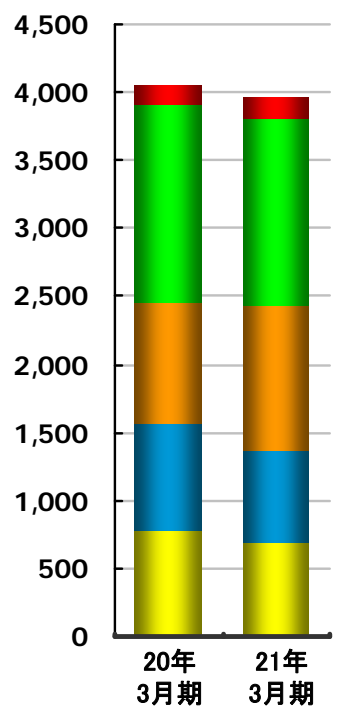


	2020年3月期	2021年3月期		2021.1Q	2021.2Q	2021.3Q	2021.4Q	2022.1Q	2022.2Q	2022.3Q
売上高	2,606	2,658	配信	659	669	673	655	621	588	581
利益	826	875		230	231	209	204	166	152	149
利益率	31.7%	33.0%		34.9%	34.6%	31.2%	31.2%	26.7%	25.9%	25.7%
売上高	1,022	1,069	制作	183	186	323	374	456	552	473
利益	65	31		6	△1	11	14	△92	△28	△30
利益率	6.4%	3.0%		3.7%	△0.8%	3.7%	3.9%	△20.3%	△5.1%	△6.4%
売上高	704	912	その他	261	239	179	231	230	265	213
利益	101	△105		△41	△9	△50	△5	△13	7	2
利益率	14.4%	△11.5%		△15.7%	△0.1%	△33.5%	2.5%	△5.7%	2.7%	1.3%
合計	4,333	4,639	合計	1,104	1,096	1,177	1,261	1,304	1,399	1,264

- ◆ Jストリーム本社、子会社含め、大型の制作案件受注は不振が続く
- ◆ 子会社のモバイル系デザイン(端末メーカー系)の落ち込みが大
- ◆ 配信の減少傾向には歯止めをかけられた

※詳細は決算短信 p.11 をご参照ください。

(参考情報)商品別売上推移(個別)

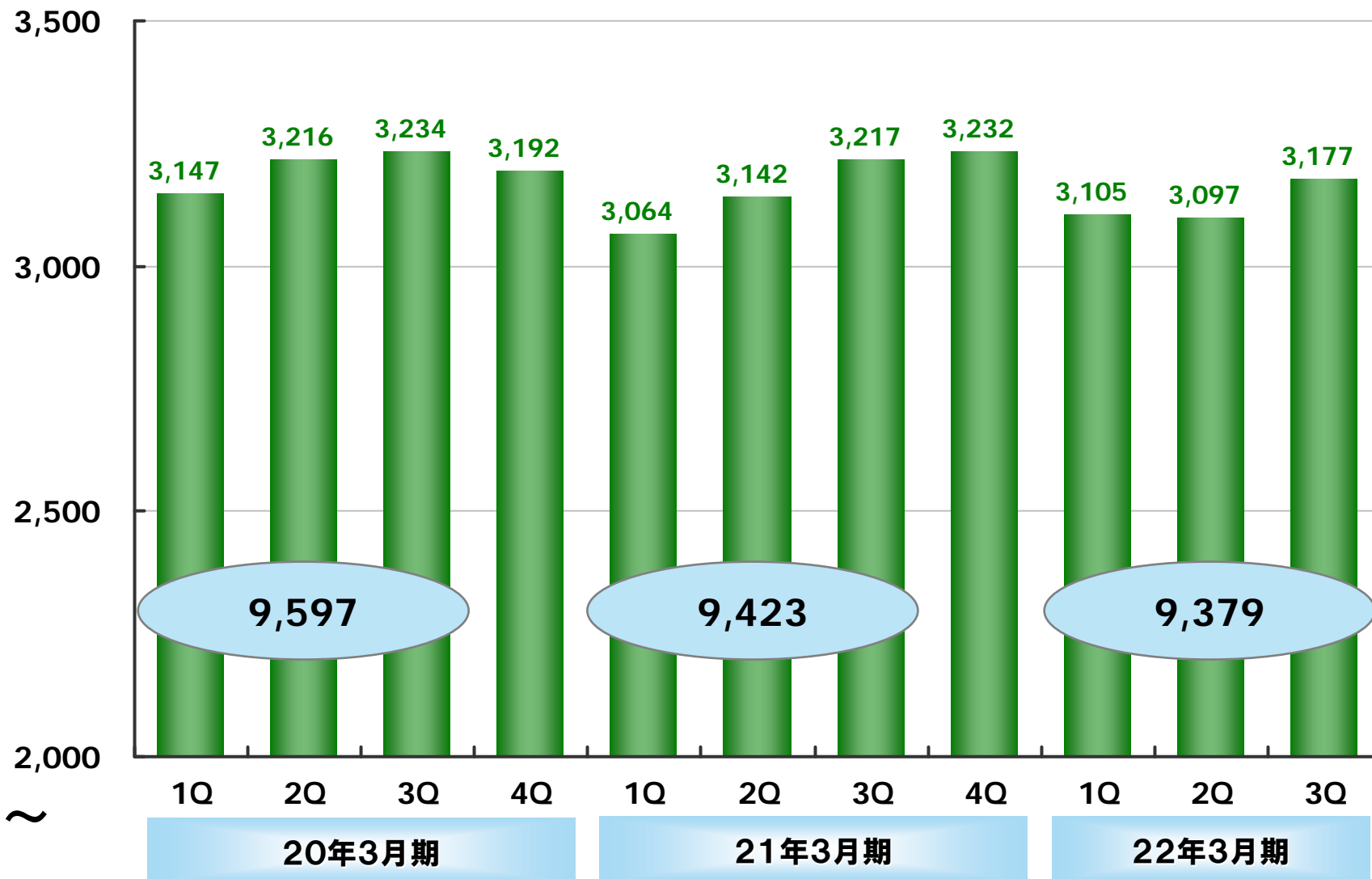


ライブ	144	153
オンデマンド	1,456	1,373
モバイル	899	1,072
制作	773	677
その他	789	693
合計	4,070	3,970

ライブ	36	33	42	41	36	41	45
オンデマンド	343	344	344	342	316	287	285
モバイル	240	252	263	315	250	245	257
制作	154	160	160	201	144	148	130
その他	217	203	133	139	159	205	127
合計	991	994	944	1,040	907	929	845
合計	1,985		1,984		1,836		

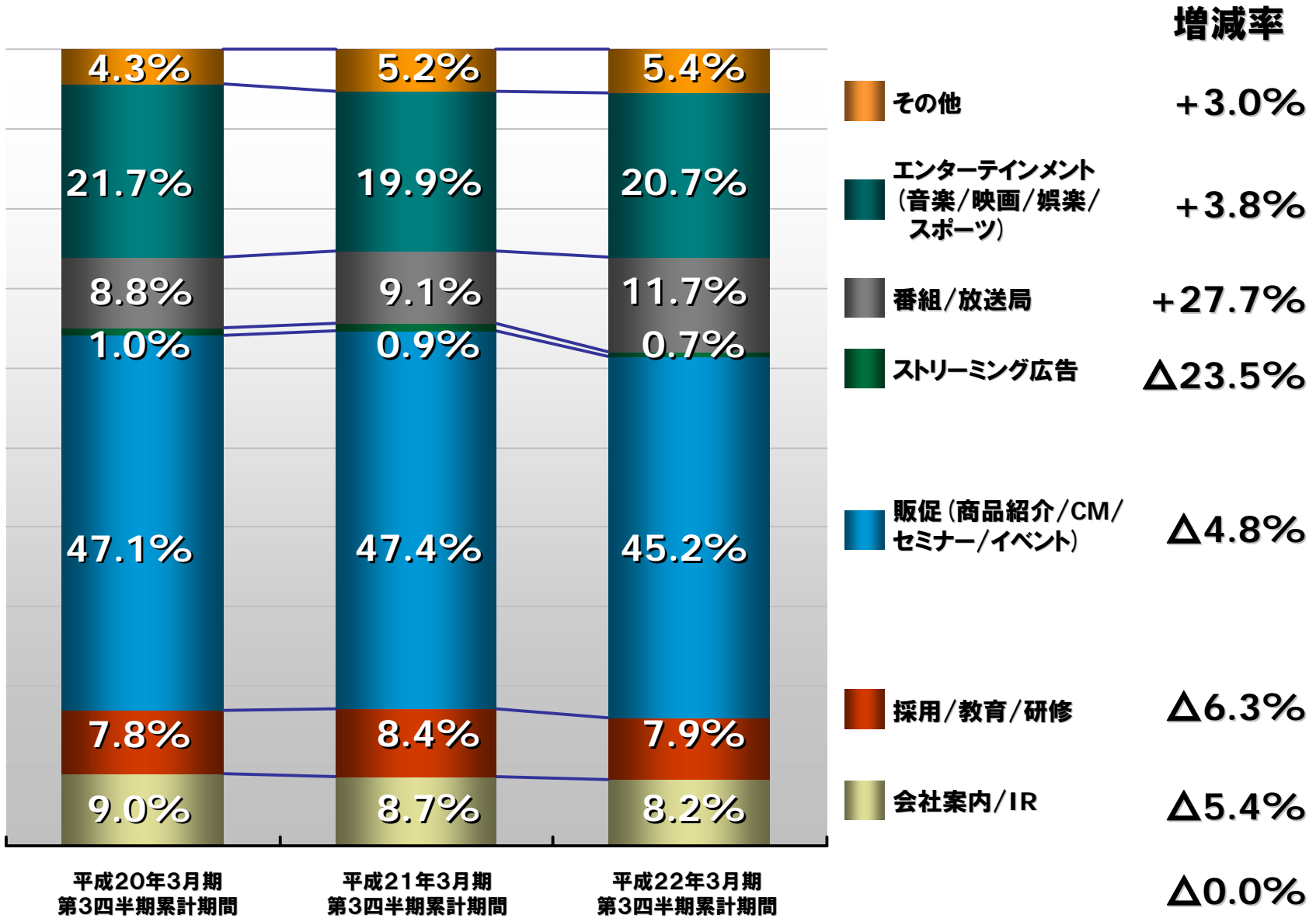
- ◆ オンデマンドは案件自体の消滅や単価引き下げの影響があるが、期ベースでの減少傾向は止まる。
- ◆ モバイル関連は堅調に推移しているが、オンデマンドの低下をカバーする水準には届かず。
- ◆ 2Q対比での売上減少の主要因はKDDI案件終了に伴うその他売上の減少。

(参考情報)取引案件数動向(個別)



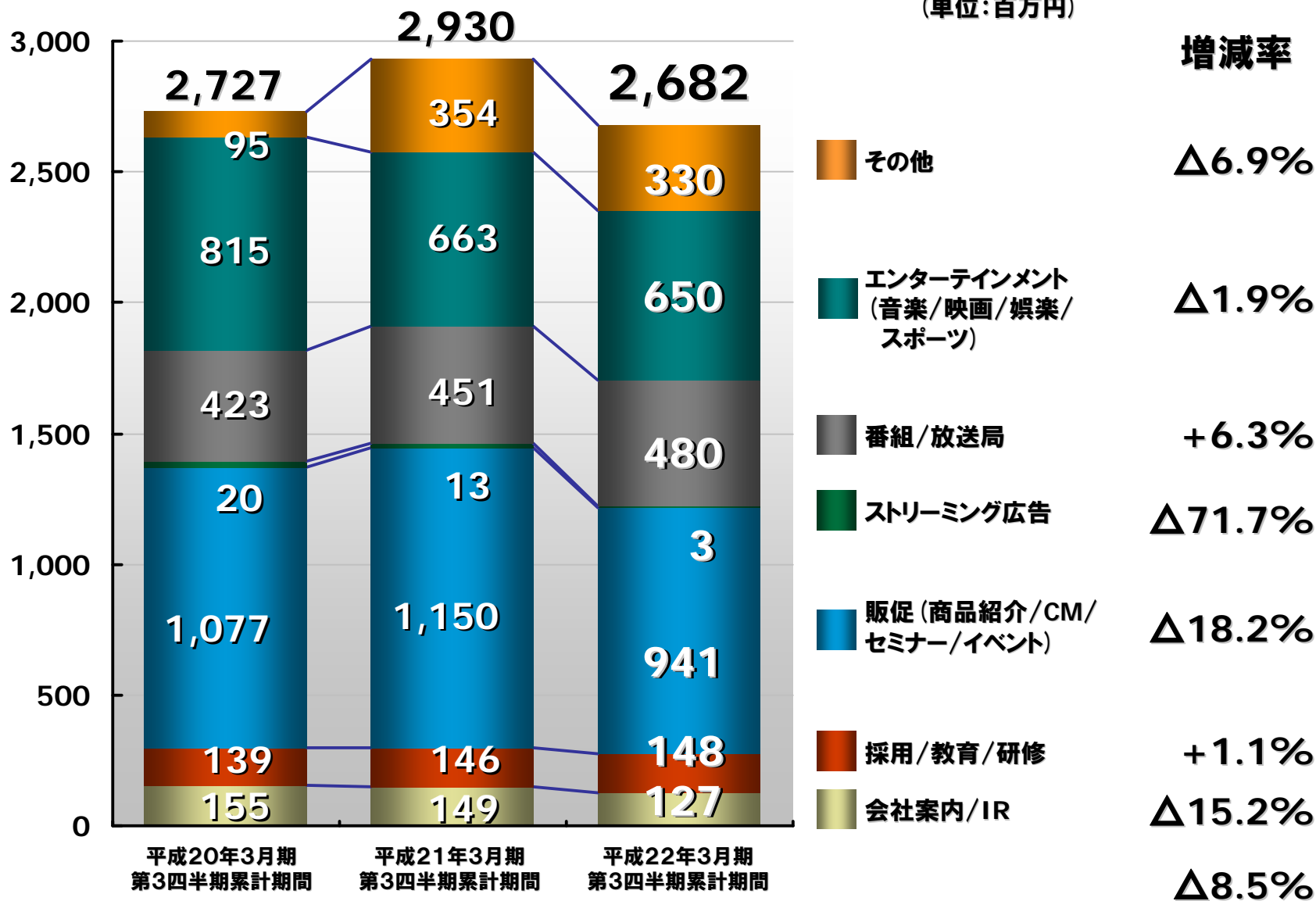
▶ 3Qは前年同期とほぼ同水準。モバイルの件数が増加している。

用途別件数比率(個別)



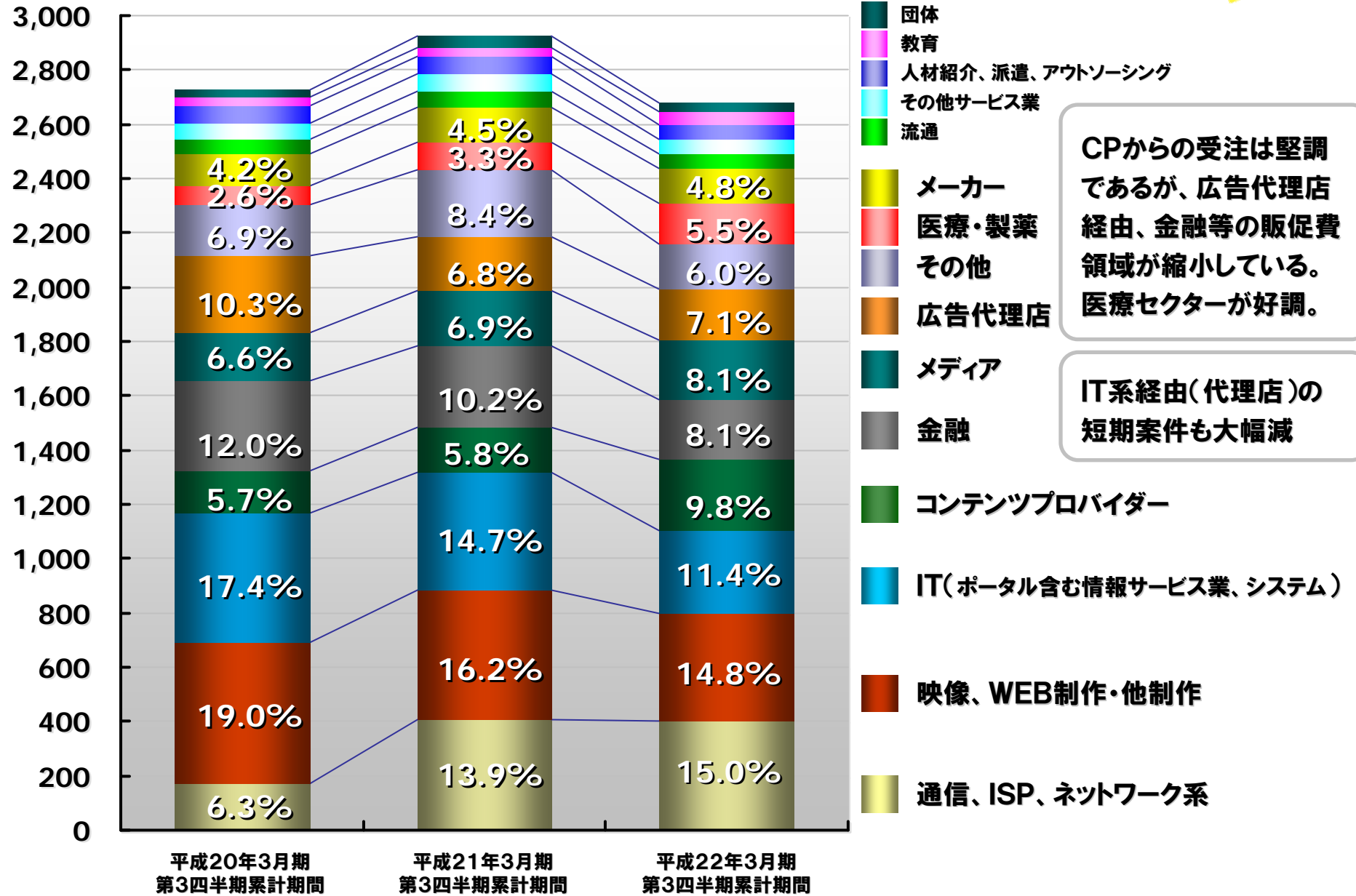
用途別売上比率(個別)

(単位:百万円)



▶ プロモーション用途の「商品紹介/CM」での利用が急減。CP系は堅調。

業種別売上比率(個別)



設備投資状況

投資実績／予定

	投資項目	実施額 (年間予定額)
22年 3月期 進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ■ネットワーク機器／キャッシュサーバ／サーバ 増設、IPv6対応ハードなど 32 (更新が中心) ■携帯端末間連 33 (配信サーバー、エンコード設備など) ■新サービス関連 16 ■HD対応施設、社内システム関連(子会社分含)、取材用機材等 93 	<p>215 (246)</p>

13期の開発向け投資のテーマ

- ◆ WebCDN含め、ネットワーク配信商品の強化
- ◆ 配信周辺ASP商品の商品開発をスピードアップ、表現系でも当社ならではの「伝え方」を開発、提供する
- ◆ モバイル配信商品の展開

最近のトピックス

▶ 動画検索サービスにおいて、企業の公式動画を検索可能とするトライアルを実施

一般的な動画検索エンジンは「動画共有サイト」の投稿動画のみを検索対象としている。

Woopie、Baiduなどの動画検索サービスにおいて、Jストリームが配信する企業の公式の動画コンテンツをインデックスに追加。

→ Jストリームの顧客企業は自社の動画コンテンツへの新たな集客導線を得る。

動画検索経路での動画コンテンツの視聴傾向を分析していく予定。

▶ J-Studio HD for Seminar

Jストリームのスタジオで撮影可能なHD映像を利用し、プレゼン資料を発表者の映像に合成して、簡単に高品質のプレゼンテーション映像を制作する。

低廉な価格帯で提供
(撮影、資料合成で5万円から)

▶ Silverlight™ 配信プラットフォームにDRM機能を追加

Windows Media DRMはIEのみの対応であったが、Silverlight向けの配信でMac OSやFirefox、Safariを利用するユーザーにも、著作権保護された映像を提供可能に。

CPのメリット:コンテンツの再エンコードや再暗号化などの手間をかけずにクライアント環境を大きく拡大

▶ (予定)資本準備金の額の減少

今後の資本政策の柔軟性と機動性を確保することを目的として資本準備金の額の減少を行い、その全額をその他資本剰余金に振り替える

平成21年9月30日時点での資本準備金
1,268,458,368円のうち600,000,000円を減少し、同額をその他資本剰余金に振替。

臨時株主総会(2/26)で決議予定

業績予想

22年3月期 業績予想(12/28 修正実施)

	平成22年3月期					
	連結			個別		
	通期予想	第3四半期実績	予想との差異	通期予想	第3四半期実績	予想との差異
売上高	5,435	3,968	1,467	3,570	2,682	888
営業利益	△180	△214	34	0	△23	23
経常利益	△155	△196	41	0	△9	9
当期純利益	△185	△227	42	△62	△74	12

	平成21年3月期実績	
	連結	個別
売上高	4,697	3,970
営業利益	167	171
経常利益	197	208
当期純利益	5	42

- ◆ 引き続きグループ内連携による案件内製化進行
- ◆ 間接費用の引き締め、合理化を継続
- ◆ 年度末のプロモーション、イベント関連コンテンツ配信案件の獲得に注力